

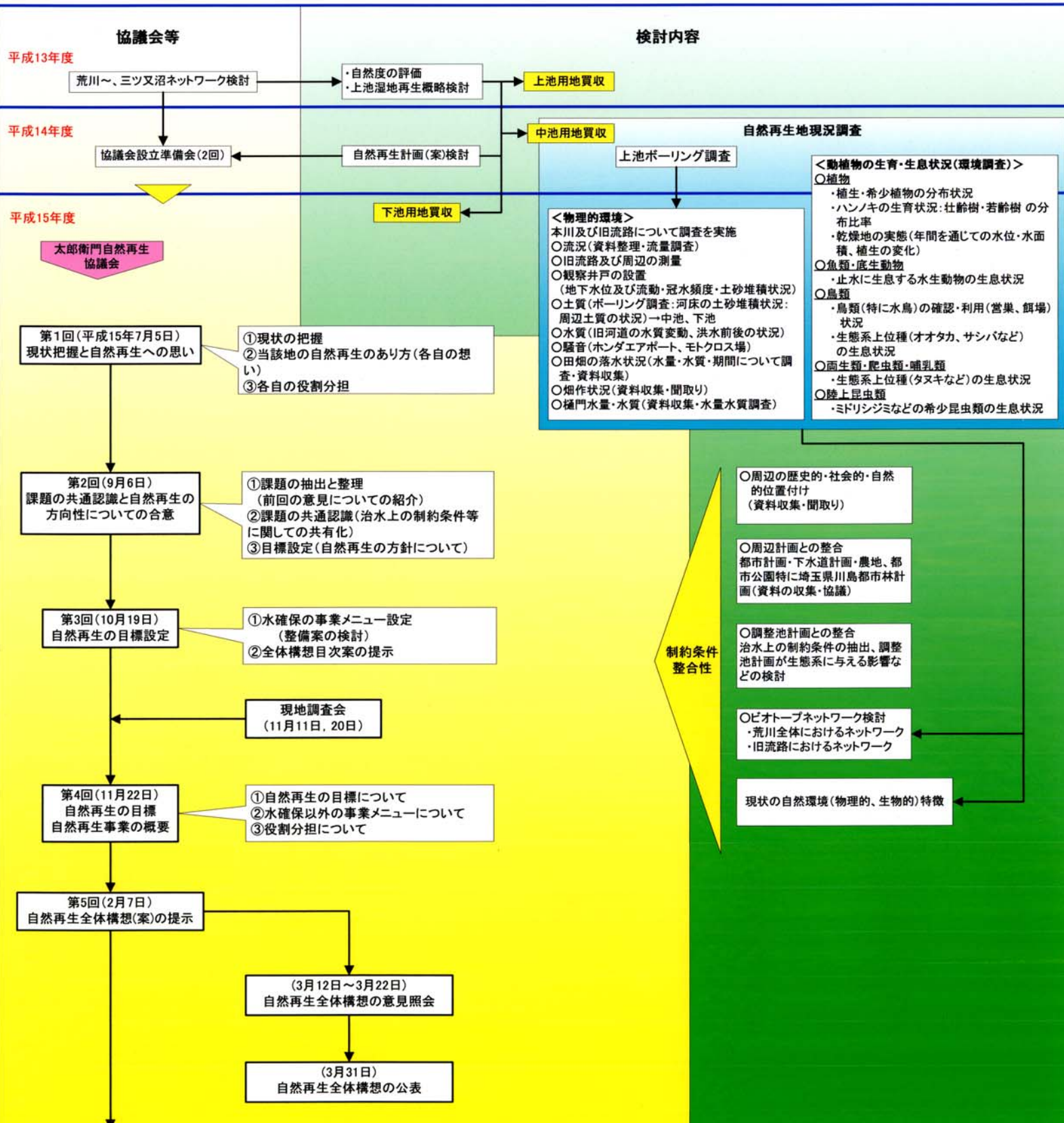
荒川太郎右衛門地区自然再生協議会の全体スケジュール (平成15年度まで)

太郎右衛門自然再生地の社会的状況

- 旧流路は、横堤によって分けられた3つの池(上池、中池、下池)を中心とした豊かな湿地の自然が発達しており、住民からの自然保護に対する要望は強い。
- 旧流路周辺はそのほとんどが民地であり、耕作などによる改変が懸念される。

太郎右衛門自然再生地の自然環境の状況

- 乾燥化によって湿地が減少し、湿地に形成している多様な生態系が衰退しつつある。
- 洪水による攪乱・更新の頻度の減少、強度の低下により、ハンノキ林を中心とした湿生林が安定・極相化し、高木・壮齢化が進んでいる。



(平成16年度)

協議会等

平成16年5月24日 池谷奉文先生
(自然再生専門家会議委員)現地視察

平成16年度

第6回(平成16年6月12日)
自然再生事業実施計画の骨子について

- ①自然再生事業実施計画骨子(案)
- ②設計の考え方に関する基本事項について

必要に応じて、専門委員会を開催

第7回(平成16年9月5日)
当面の事業概要について

- ①現地調査
- ②当面の整備メニューの設計の考え方について
- ③当面のモニタリング計画について

現地植物等調査会
(平成16年9月29日)

第8回(平成16年10月31日)
設計概要及びモニタリング計画について

- ①設計概要について
- ②モニタリング計画及び専門委員会について

モニタリング専門委員会 設置

第9回(平成16年2月5日)
試験掘削<現地立会い>

- ①試験掘削の現地確認(位置・範囲等)
- ②試験掘削地の施工計画説明
- ③試験掘削地のモニタリング計画について

試験掘削地完成(平成17年3月)
・エキサイゼリ保全・再生実験
・エコトーンの創出実験

平成17年度へ

調査・検討

○調査・検討内容のフォローアップ
①事業対象地の詳細な生物調査
・ハンノキ林(下池)の詳細な植生密度等
・中池周辺河畔林の詳細な植生密度等調査
・魚類等水性生物の実態調査
・掘削等改変地区の植生及び動物調査
②物理環境等
・水質調査
・灌漑期の水量・水質調査
・地下水位の継続調査(観測井戸)

○自然再生の意義及び効果について

○設計計画
設計条件の整理、基本事項の整理

○事業実施中・実施後のモニタリング計画
(対象、時期、頻度)

○設計パースの検討(目的、項目、内容)一般
図面、比較案

○自然再生計画案の作成
モニタリング計画、事業実施に伴う影響予測、
自然再生の意義及び効果、設計

自然再生
事業実施
計画作成

(平成17年度の予定)

